

News letter

Japan Nursing Society of PAS Based Self-Care Therapy



PAS-SCT 看護学会第3回大会 大会長挨拶

セルフケア支援の発展 一事例がもたらす知の構築と介入型事例報告・事例研究一

第3回大会 大会長 國府浩子

(熊本大学大学院生命科学研究部 教授)

このたび、PAS セルフケアセラピイ看護学会第3回大会を 2020 年 9 月 6 日（日）大阪あべのハルカスで開催させていただきます。今回のテーマは『セルフケア支援の発展一事例がもたらす知の構築と介入型事例報告・事例研究一』といたしました。

慢性疾患を主体とする疾病構造の変化、超高齢化社会、昨今の医療状況のもと、看護者には、多様化している患者の価値観や生き方を理解し、患者が自分自身で病気のある生活をマネジメントする力を身につけられるよう知識・技術を提供するとともに、様々な役割をもった生活者として主体的に生きられるように援助する役割が期待されています。

ドロセア・E・オレムは、「セルフケア」を「個人が生命、健康、および安寧を維持するために自分自身で開始し、遂行する諸活動の実践である」と定義しています。安寧(well-being)という言葉が表すように、自分らしく生活することを含めてのセルフケアといえるでしょう。そのため、その人の主体性や意思決定を支える支援が大きな意味を持つと思われます。

患者の価値観や生き方が多様化している現在においては、看護の重要な機能であるセルフケアへの支援を、実践的・学術的に発展させていくためには、一つ一つの事例を大切に分析していくことが重要となってきます。事例研究は、実践家のリフレクションを促進し、卓越した看護実践の暗黙知を明らかにするだけでなく、実践知として集積・体系化されることにより看護の技を次世代へ継承するという有用性・貴重性をもっていると言われています。

「個別性」を徹底的に検討することを通して普遍性を追求するというアプローチにその本質があり、複雑かつ多様な状態の中で、事象の個別性を大切にし、それが起きる状況ごと包括的に切り取って吟味することから新たな知を構築していきます。日々の実践で経験した事例報告を積み重ね、事例報告をもとに仮説を立てて介入を行い、その評価を行うことで、患者の特徴と特徴に応じた看護介入技法が明確になると思われます。これは、本学会の大きな目的であり、今、私たちに求められていることを感じています。

事例報告・事例研究は、看護の中では、自分の実践を振り返る貴重な報告・研究ですが、この学会・大会では、事例報告・事例研究を、実際に実践しながら成果をあげていく「介入型事例報告・事例研究」として新しい形式、まとめ方を提案しています。これは精神医学の研究の中で用いられていた方法



ですが、事例報告や事例研究が、研究業績の数としてカウントされにくい、原著論文になりにくいことからその数は減ってきました。

しかし本学会・大会では、事例報告・事例研究を生きた研究として扱い、さらに自分たちの看護実践能力の発展のために用いていきます！

今回の大会では、セルフケア支援について、介入型事例報告と介入型事例研究とその意義、方法論について語り合える場になることを願っています。そのような場を作り上げるためにも、多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。



第3回大会ホームページ▶▶<https://www.passctnursingconference.com/>



PAS-SCT 看護学会 2019年トレーニング 参加者の声

PAS-SCT 看護学会主催トレーニングに参加して

鶴田 百合子

(東北大学病院 精神看護専門看護師)

CNSの認定を受けた当初、自分の強みといえるようなものを持っておらず、不安な気持ちで勤務をしていました。そのときに出会ったのがPAS-SCTでした。これまで患者のアセスメントは机上で行い、自分の頭の中だけで考えていたので、実際に合っているのか不安なまま、経験を頼りに関わっていたように思います。患者と関わる場面では、患者の情報をとりすぎて先入観でみてしまい、「私には手におえない」と思ってしまうこともありました。

トレーニングを始めた頃、ロールプレイになると実践の場面と同様に、失敗したらどうしようと怖気づいていました。「ごちゃごちゃ言わないでまずやってみましょう」と先生に背中を押され、患者の情報をほとんど知らないままロールプレイを行いました。3分毎に時間を区切ってロールプレイをしていくうちに、実際の場面で初対面の患者であっても怖気づくことは少なくなりました。患者に興味を持ち、対話を通してセラグノーシスを行い、患者の反応が思うようなものではなかったとしても、何度も立て直していくればいいと思えるようになります。自分自身の安全空間は以前より安定したように思います。

学びを通して新鮮に感じていることは、防衛機制やパーソナリティスタイルが多様であるほど、患者の能力として捉え、それを生かして患者の変化への可能性を見いだしていくということです。困難患者と思っていた患者への見方が変わり、「もう少し関わってみよう」と、関わりに可能性を感じることができ、看護の楽しさを感じています。

CNSは危機的な場面での対応や日常の看護では対応できない場面での相談があります。結果にこだわりすぎ、緊張で目標を見失うこともあります。専門家として、自分の感性を信じ、存在感を感じ、困難患者の絡まった糸を自然にほどいていけるような存在になっていけるよう、日々トレーニングを続けていきたいと思っています。

PAS-セルフケアセラピイ看護学会主催トレーニングに参加して

村岡 大志

(公益社団法人岐阜病院)

私は精神科単科の病院で約30年間看護実践を行っていました。その中で戸惑いや壁にぶち当たるたびに、“自分に足らなかったものは何だろう?”と振り返りながら実践を積み重ねる中で、精神看護 CNS の道に進みました。CNS を取得してからは、より対応困難と言われる患者と関わることが増え、“どう関われば良いのか?”と、より一層看護実践に戸惑いを持つようになりました。そのような中で、PAS-セルフケアセラピイ看護学会主催トレーニング開催の話を聞き参加しました。

トレーニングに参加しての最初の感想は、“まったく話についていけない”でした。看護実践の場でセルフケア能力の査定を行いセルフケア自立に向けた援助を行っていた思いだけで参加していたので、セルフケアニーズと要件の違いやセラグノース、ノーダルポイントなど小谷先生・宇佐美先生が話している内容を理解することに追いついていけませんでした。それ以上に戸惑ったのが宇佐美先生とのロールプレイでした。3分間という短い時間の中で、“介入のきっかけをつくらなくては”と思いながら話を進めようとしても、自分より高いエネルギーで話を持っていかれてしまい何もできずに終わってしまいました。しかし、4回のトレーニングに参加する中で徐々に理解できるようになり、どのように対象と関わるかの示唆をいくつも得ることができ、“今度の面接でやってみよう”という実践に繋がるようになりました。また、4回のトレーニングに参加する中で、自分と同じような困難事例に関わっている受講者との交流も、PAS-SCT の知識や面接技術と同様に得ることができました。

4回のトレーニングを終え、PAS-セルフケアセラピイの実践が十分できるようになったわけではありませんが、事例報告ができるよう引き続きトレーニングに参加し理解を深めていきたいと思います。



皆様のお力添えをいただき、2019年トレーニング全4回を滞りなく開催できました。

心より御礼申し上げます。

2020年2月15日（土）、16日（日）には、2020年トレーニングの第1回が始まります！

ご参加お待ちしております！



PAS-SCT 看護学会トレーニング 精神科診断・薬物治療編第1回 参加者の声

PAS セルフケアセラピイ看護学会トレーニング精神科診断・薬物治療編第1回に参加して

中谷 結香

(新阿武山病院 認定看護師)

精神科認定看護師として学びを深めるため、昨年11月17日にPASセルフケアセラピイ看護学会トレーニング精神科診断・薬物治療編第1回に参加させて頂きました。

まず桜が丘病院の大磯宏昭先生より、日本の治療ガイドラインにおける薬物治療に関する概略、精神科治療における薬物療法の現在の位置づけについて講義をして頂きました。精神科において薬物療法以外にも心理療法や社会療法を多職種チームで連携していくことが主流とされています。看護職がより専門的な実践能力を発揮するにあたって、多職種が何を元にどのようにアセスメントしているのか把握することは大切なことの一つであると改めて感じました。今回医師の立場から薬物療法における考え方について講義をして頂いたことは大変貴重な機会でした。

次に宇佐美しおり先生より、PASセルフケアセラピイの概要についての説明の後、事例提供が行われました。オレムーアンダーウッドモデルのセルフケア理論の構成を踏まえながら、主訴の把握から総合アセスメント、そして介入技法の発展の一連の流れについて分かりやすく解説して頂きました。その中でも、CASE FORMULATIONで何がセルフケアを低下させているのか、どこに介入するとセルフケアが改善するのかをより明確にすることが目標やケアプランに繋がると分かりました。いざ自分で取り組むとなると、項目一つ一つが果たして正しく把握できているのかまだ不安が残りますが、今後も自分の中で落とし込む作業をしながら、繰り返しトレーニングをしていきたいと思いました。



PAS セルフケアセラピイ看護学会トレーニング精神科診断・薬物治療編第1回に参加して

福岡 敦子

(大阪市立総合医療センター 精神看護専門看護師)

今回の研修は、精神科治療における薬物療法の位置づけや薬物治療ガイドラインの理解について、大儀先生に精神科医の立場から非常に率直な考えを聞くことができた貴重な機会でした。特に印象に残ったのが、精神科治療のゴールは「病気や症状の軽減・回復」から「社会適応や生活の幸福度」に移るにつれ、薬物療法のみでゴールに到達することは難しく、薬物治療は精神科治療の一部であり、薬物治療の必要性は心理社会的介入が有るか無いかで判断されているというお話をしました。

私自身も、精神科リエゾンチームで、病気や身体治療により苦痛や苦悩を抱え、様々な精神症状を呈する患者さんと関わるなかで、同じような思いを抱いていました。薬物治療で症状が軽減することでストレスフルな状況に対処しやすくなり、出来ることが限られる状況で、何か対応出来ることが準備されている安心感を患者や周りの支援者が持つことが適応の助けとなることもあります。しかし、患者さんの苦痛やつらさを適切にアセスメントし、患者さんが自分でコントロールできる方法と一緒に考え、周囲が患者さんの抱える苦痛を理解して、ストレス軽減が図られれば、徐々に薬は必要無くなっていくことも多く経験してきました。

研修後半では、宇佐美先生より PAS-SCT を用いた介入型事例報告の基本構造とセルフケアの意図的

過程についての講義を受け、実際に事例検討を行ったことで、セルフケアを促進させるために意図的に介入できるニーズを探し、心的安全空間を生成し、セルフケアを変化させるという PAS-SCT の理論構造と、その中の薬物治療が担う部分の全体像を少しですがイメージすることができました。事例をどうアセスメントし、支援するかが大切であることに改めて気づくことができ、臨床で PAS-SCT を実践できる力をつけていきたいと思いました。



精神科診断・薬物治療編第2回は、2020年3月8日（日）開催です！

第2回のテーマは、「気分障害・外傷後ストレス障害・人格上の課題を有する患者へのセルフケアプログラム～PAS - SCT の展開」です。

患者・家族への看護の重要な役割・機能であるセルフケア支援に関心のある方、実践能力を高めたいと考えていらっしゃる方、ご参加をお待ちしています！



学会トレーニングのご案内（学会事務局）

◆2020年PAS-SCT 看護学会主催トレーニング 第1回

本学会トレーニングでは、精神障害、悪性腫瘍・糖尿病・心不全・脳血管疾患を有する慢性疾患患者へのセルフケアプログラムおよび行動化・反復される自傷行為・依存や訴えが多い・長期入院・入院の繰り返し・隔離拘束がとれない・衝動性の高い患者等「ケア困難な患者」に対するPASセルフケアセラピィ(PAS-SCT)の看護介入に関する理論と技法を学びます。年数と努力とともに能力も変化していきますので昨年参加された方も継続してご参加ください！在院日数が短く地域での生活期間が長くなる中、忙しい業務の中で効果を確実にだせる看護介入技法を修得していきます！

日時：2020年2月15日（土）11:00～18:30、2月16日（日）10:00～16:30

場所：1日目リンク大阪セミナールーム 2日目あべのハルカスセミナールーム

参加費：会員 13,000円、非会員 15,000円 （2日間の参加費です）

◆PAS-SCT 看護学会トレーニング—精神科診断・薬物治療編②—

慢性疾患患者へのセルフケアプログラム

—ケア困難患者へのPAS-SCT実践における精神科診断と薬物治療、治療概要—
気分障害・外傷後ストレス障害・人格上の課題を有する患者へのセルフケアプログラム～PAS-SCTの展開

慢性疾患患者へのセルフケアプログラム、再入院や再発を繰り返したり自傷行為・行動化を有する患者へのPAS-SCT（PASセルフケアセラピィ）の展開において、精神科診断、精神科薬物治療の展開、治療の展開の理解は非常に重要な位置づけにあります。患者・家族への看護の重要な役割・機能であるセルフケア支援に関心のある方、実践能力を高めたいと考えいらっしゃる方は、ぜひご参加ください。

日時：2020年3月8日（日） 10:30～14:00

場所：あべのハルカス23階 セミナールーム

参加費：会員 3,500円、非会員 4,500円

◆申し込み先：PAS-SCT 看護学会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

四天王寺大学看護学部

TEL：072-959-2436 E-mail：passct_office@passct.com

事務局長 川田陽子（四天王寺大学） 事務局長補佐 宮崎志保（四天王寺大学）

事務局 石飛マリコ（日本赤十字九州国際大学）、橋野明香（広島大学）